

# 保証書 取扱説明書

## 保証書 取扱説明書

## 保証書 取扱説明書

取扱説明書番号 M-007C-WEB

## 保証書 取扱説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

<b>保証書</b>	本保証書は日本国内のみにて有効です。THIS GUARANTEE IS VALID ONLY IN JAPAN. 此保証書适用范围仅限日本国内有效。
保証期間:お買上日より1年間	お買上げ日： 年 月 日
お客様名	様
販売店	

- <保証規定>**  
この時計をご使用中、取扱説明書にそった正常なご使用状態で自然故障を生じた場合には、下記保証規定により無料で修理・調整いたします。
- 保証の対象となる部分  
ウォッチの回路、コイル等電気部品、歯車等機械部品
- 保証の態様(方法)  
修理・調整を原則といたします。  
修理の際、ガラス・ケース・文字板・針・りゅうず・バンドなどは一部代替部品を使用させていただくことがありますので、ご了承ください。
- 保証を受けるための条件(手続き)  
保証規定による修理・調整の際は必ず現品に保証書を添えてお買上げ店にご持参ください。  
ご購入・ご転居などにより、お買上げ店での保証を受けられない場合は**Q&A**お客様相談室にお問い合わせください。

## 保証とアフターサービスについて

- 保証について  
正常なご使用中、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。
- 修理用部品について  
ケース・ガラス・文字板・針・りゅうず・プッシュボタン・バンドなどの外装部品には、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。
- ご購入・ご購入済の場合  
保証期間中にご購入されたり、ご購入済のためにご使用の時計がお買上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、下記**Q&A**お客様相談室へご相談ください。
- 定期点検(有償)について  
・防水性能について  
防水時計の防水性能は経年劣化しますので、安全に長くご使用いただくために2・3年に一度防水検査を行なっていたらしくをお勧めします。防水性能を維持するためには、部品の交換が必要ですので、バックアップなどの交換をご依頼ください。  
・分解掃除(内装修理)について  
腕時計を長くご愛用いただくには分解掃除(内装修理)が必要です。歯車などの部品は長くご使用いただくことにより磨耗してしまいますが、これを抑えるために潤滑油を使用しております。しかし経年劣化により潤滑油の汚れなどで部品の磨耗が進み、故障に至ることがあります。目安として5年に一度の分解掃除をご依頼をお勧めします。
- その他お問い合わせについて  
保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買上げ店または下記**Q&A**お客様相談室へご相談ください。

### サービス窓口：Q&Aお客様相談室




TEL.	<b>03-6631-2775</b>
受付時間	9:30～17:30 月～金(祝日、年末年始を除く)
メールアドレス	qqsupport@citizen.co.jp
URL	http://qq-watch.jp

製造発売元 **シチズン時計株式会社** 国内時計営業本部 **Q&A** 課

## 安全上のご注意(必ずお守りください)

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	<b>警告</b>	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	<b>注意</b>	この表示の欄は、「障害を負う可能性または物的障害のみが発生する可能性が想定される」内容です。
■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)		
	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。	

## ご使用になる前に

**保護シールについて**

時計のガラス部分や金属部分(裏蓋、バンド、中留め)にシールが貼られているときは、ご使用前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

**十分に光を当てて充電してからご使用ください。**

この時計には電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。この二次電池は、水銀などの有害物質が一切使われていないグリーンエネルギー電池です。持続時間の目安は、「製品仕様」5. 持続時間」をご覧ください。

**保護シールについて**

時計のガラス部分や金属部分(裏蓋、バンド、中留め)にシールが貼られているときは、ご使用前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

## お取り扱いにあたって

### 注意 人への危害を防ぐために

- 幼児を指くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
- あらかじ運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- 時計をしたまま就寝しないでください。思わぬけがやかぶれを引き起こす恐れがあります。

### 注意 使用上の注意

- りゅうずは常に押し込んだ状態(通常位置)でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかりと固定されているを確認してください。
- 水分のついたままりゅうず操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- 万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買上げ店または、**Q&A**お客様相談室へ修理、点検を依頼してください。
- 時計の防水性能が高い場合でも、次のことにご注意ください。海水に浸したときは、真水で洗い乾いた布で良くふきとる。水道水を蛇口から直接時計にかけない。入浴するときは時計をはずす。
- 時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品(ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど)が外れる危険があります。

### 注意 携帯時の注意

- 【バンドについて】**
- 皮革バンドやウレタンバンド(ゴムバンド)は、汗や汚れにより劣化します。定期的な交換を行ってください。
  - 皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。(脱色、接着はがれ)また、かぶれの原因にもなります。
  - 皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。
  - バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
  - ウレタンバンド(ゴムバンド)は、衣類等の染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。色落ちするもの(衣類、パップ等)と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取り替えください。
  - 以下の場合は、速やかにバンドの調整・修理をご依頼ください。
    - 腐食により、バンドに異常が認められたとき
    - バンドのピンが飛び出しているとき
  - お客様ご自身で時計のバンド(金属やゴム)の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガ

## 防水性能について

### 警告 防水性能について

- 時計の文字板および裏蓋の防水性能表示をご確認の上、下表を参照して正しくご使用ください。(1bar は約1気圧に相当します)
- WATER RESIST (ANT) xx bar はW.R. xx bar と表示している場合があります。
- 非防水時計は、水中や水に触れる環境での使用はできません。

名称	表示		使用例				
	文字板または裏蓋	仕様	水がかかる程度の使用。(洗顔、雨など)	水仕事や一般水泳に使用。	スキューバ、マリンスポーツに使用。	空気を圧入するスキューバ潜水に使用。	水滴がついた状態で10分間の操作。
非防水時計	—————	非防水	×	×	×	×	×
日常生活用防水時計	WATER RESIST	3気圧防水	○	×	×	×	×
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST	5気圧防水	○	○	×	×	×
	WATER RESIST	10 bar	○	○	○	×	×

**時計のお手入れ方法**

- ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- 金属バンド・プラスチックバンド・ウレタンバンド(ゴムバンド)は水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで除去してください。

- 皮革バンドは乾いた布などで拭いて汚れを除去してください。

- 時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

<b>夜光付き時計の場合は</b>
時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。この塗料は太陽光や室内照明(白熱灯を除く)などの光を蓄え、暗い所で発光します。
○蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ(輝度)は落ちていきます。
○光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間や蓄光塗料の量などによって、発光する時間に差異が生じます。
○光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

## ソーラー電源機能搭載ウォッチの二次電池の取り扱いについて

- 同じタイプでも文字板のデザインにより受光量が異なり充電時間が異なります。
- フル充電すると光を受けない状態でも持続時間内であれば、時計は正常に動き続けます。
- 時計をはずした時には、できるだけ明るい所に置くように心がけますと、時計は常に正しく時を刻み続けます。
- 長袖などで、常に光を触れない状態の時は、止まる場合がありますので、ご注意ください。

### 警告 二次電池の取り扱いについて

- お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。
- やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。
- 万一、二次電池を飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談して治療を受けてください。
- 一般のゴミと一緒に捨てないでください。発火、環境破壊の原因となりますので、お住まいの自治体の指示に従ってください。

### 警告 指定の電池以外は使わないでください

この時計に使われている二次電池以外の電池は絶対に使用しないでください。他の種類の電池を組み込んでても時計は作動しない構造になっていますが、無理に銀電池などの他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損および人体を傷つける危険があります。二次電池交換の際は、必ず指定の二次電池をご使用ください。

### 注意 充電上の注意

充電の際に時計が高温になると、故障の原因となりますので、高温下(約60℃以上)での充電は避けてください。例)白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい光源に時計を近づけての充電。車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所の充電。

・白熱灯で充電するときは、必ず50cm以上離して、時計が高温にならないように注意して充電してください。

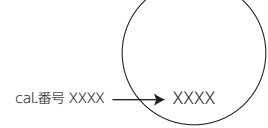
<b>二次電池の交換について</b>
この時計に使われている二次電池は充電・放電を繰り返し行えるため、一般の電池のように定期的な電池交換の必要はありません。

## 製品仕様:cal. HP35

- |            |   |          |            |          |      |       |     |
|------------|---|----------|------------|----------|------|-------|-----|
| 1. 特徴      | ：日本長波標準電波を2局自動切替受信し、時刻を自動修正できるソーラー電源機能搭載のアナログ電波時計   |          |            |          |      |       |     |
| 2. 基本機能    | ：時刻表示 /時・分・秒  |          |            |          |      |       |     |
| 3. 付加機能    | ：電波受信による時刻自動修正機能(定時受信・強制受信・復活自動受信) <p>受信局自動選択機能( J J Y 40および J J Y 60)</p> <p>電波受信機能(定時受信、強制受信、復活自動受信)</p> <p>受信準備表示機能(RX)</p> <p>受信結果確認機能(OK/NO)</p> <p>電波受信機能(ON/OFF)</p> <p>ソーラー電源機能</p> <p>パワーセーブ機能</p> <p>充電警告機能</p> |          |            |          |      |       |     |
| 4. 時間精度    | ：[電波受信ができない場合] <p>平均月差±20秒以内(常溫携帯+5℃～+35℃)</p>  |          |            |          |      |       |     |
| 5. 受信機能    | ：定時受信・強制受信・復活自動受信   |          |            |          |      |       |     |
| 6. 作動温度範囲  | ：-10℃～+60℃  |          |            |          |      |       |     |
| 7. 受信電波    | ：日本長波標準電波 <p>福島局(周波数40KHz： J J Y 40)</p> <p>九州局(周波数60KHz： J J Y 60)</p>   |          |            |          |      |       |     |
| 8. 受信電波    | ：定時受信時刻：1日最大2回 <p>2:00(AM) / 4:00(AM)</p>   |          |            |          |      |       |     |
| 9. 受信待受時間  | ：最短約2分/最長約15分(定時・強制・復活自動受信共通)   |          |            |          |      |       |     |
| 10. 使用二次電池 | ：二次電池 1個  |          |            |          |      |       |     |
| 11. 持続時間   | <table> <tbody><tr> <td></td> <td>フル充電状態～止まり</td> <td>2秒遅計～止まり</td> </tr> <tr> <td>HP35</td> <td>約1.5年</td> <td>約2日</td> </tr> </tbody></table>   |          | フル充電状態～止まり | 2秒遅計～止まり | HP35 | 約1.5年 | 約2日 |
|            | フル充電状態～止まり  | 2秒遅計～止まり |            |          |      |       |     |
| HP35       | 約1.5年   | 約2日      |            |          |      |       |     |

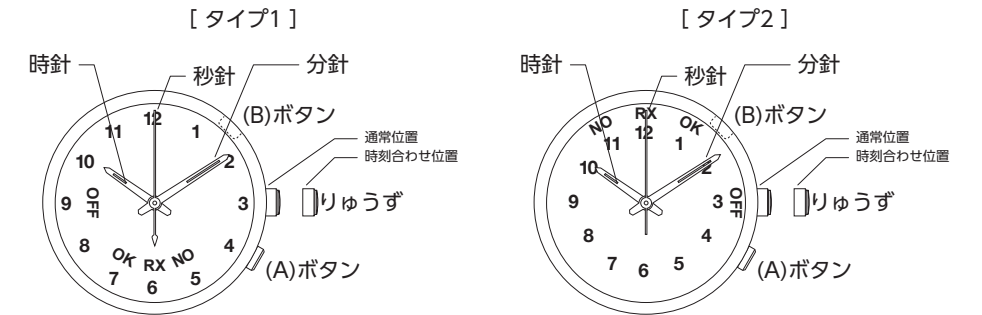
※二次電池の交換は絶対に行わないでください。

※cal.番号は右図のように裏蓋に刻印されています。



cal.番号 XXXX → XXXX

## 1.各部の名称



※受信結果を秒針の先端と根元で表す2タイプがあります。お手持ちの時計をご覧の上、デザインをお確かめください。デザインが違っても取扱方法は同じです。以下の説明の絵はタイプ2のモデルです。

## 2.商品の特徴

この時計の特徴

- 電波受信による時刻合わせ機能
- 光エネルギーを電気エネルギーに変換して時計を駆動させる「ソーラー電源機能搭載」
- パワーセーブ機能

### 2-1)電波受信による時刻合わせ機能

標準時刻情報を自動的に受信して時刻を合わせます。標準時刻情報は、福島と九州の電波送信所から送信され、受信環境の良い局を選択して受信します。時計からは電波を発信しませんので、人体や医療機器への影響はありません。

●標準電波について

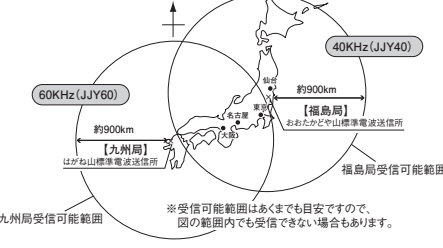
標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しております。この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、補修作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。詳しい情報は日本標準時グループのホームページをご覧ください。
http://jjy.nict.go.jp/
※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

●電波送信所について

標準電波は以下の2ヶ所より送信されています。

●受信範囲の目安

この時計は福島局および九州局の両局の電波を受信可能です。受信可能範囲としては両局の電波送信所からのそれぞれ距離が900kmが目安です。ただ、これはあくまでも目安であり、その他の要因（周辺の地形、構造物、気象条件など）で900km以



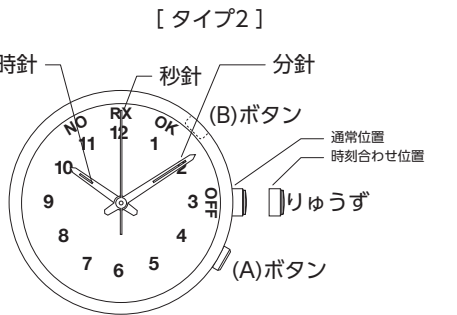
内でも受信できない場合がありますのでご了承ください。また、距離が遠くなるにつれて電波は弱くなります。

●受信環境について

受信の場合は、以下のことに注意して行ってください。

●電波遮蔽物

付近に金属等の遮蔽物があると、電波を反射・吸収させるため、受信がしにくくなります。鉄筋コンクリート建物の中、高層ビルや山などの谷間、地下車、電車、飛行機の中
●ノイズ発生物
付近に強いノイズを発生させているものがある場合、電波を受信するのが難しくなります。高圧線（電線）、電車の架線、飛行場（通信施設）、変電所の近く、通信中の携帯電話の近く、TV、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やOA機器の近く



※受信結果を秒針の先端と根元で表す2タイプがあります。お手持ちの時計をご覧の上、デザインをお確かめください。デザインが違っても取扱方法は同じです。以下の説明の絵はタイプ2のモデルです。

## 2.商品の特徴

この時計の特徴
・電波受信による時刻合わせ機能
・光エネルギーを電気エネルギーに変換して時計を駆動させる「ソーラー電源機能搭載」
・パワーセーブ機能

●アンテナの向き

この時計には、ケース内部の9時位置に電波受信用のアンテナが組み込まれています。上手に受信するためにはこのアンテナを電波送信所の方向に向けて、時計を窓際に置いてください。

●時計の状態

時計は腕から外し、受信中はなるべく時計を動かさないようにしてください。動かしながら行くと、安定した受信ができなくなります。

●温度環境

極端に高温や低温の場所では受信がしにくくなります。

●その他の影響要素

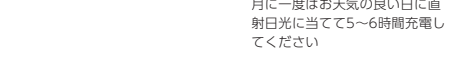
気象条件・雷・地形・季節によっても受信がしにくくなります。

### 2-2) ソーラー電源機能搭載時計について

この時計は文字板面にソーラーセルを配し、光エネルギーを電気エネルギーに変換して時計を駆動させるソーラー電源機能搭載時計です。電気エネルギーを蓄える二次電池を内蔵しています。文字板に直射日光や蛍光灯などの光を当てることにより、充電できます。

**時計を快適にお使いいただくには、常に充電を心がけてお使いください。**

- 月に一度はお天気の良い日に直射日光に当てて5～6時間充電する。
- 時計を外したら、太陽光の当たる窓際などの明るい場所に置く。
- 時計を光の当たらない場所で長期保管するときは、保管前に十分に充電をする。



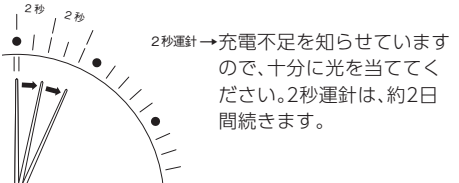
また、日常長袖などを着用していると時計が隠れて光に当たらないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
快適にご使いいただくために、余裕を持って充電することを心がけてください。この時計は、どんなに充電しても過充電の心配はありません。



※受信結果を秒針の先端と根元で表す2タイプがあります。お手持ちの時計をご覧の上、デザインをお確かめください。デザインが違っても取扱方法は同じです。以下の説明の絵はタイプ2のモデルです。

●ソーラー電源機能搭載ウォッチ特有の付加機能について

【充電告知機能】



※2秒運針状態でも、2秒運針前の時刻を記憶して動いていますが、充電不足状態になっているので1秒運針になるまで十分に充電してからご使用ください。

※「電波受信」「電波受信結果の確認」「時差の修正」「基準位置確認と修正」の最中に充電不足が発生すると自動的に操作を中断し、操作前時刻に戻り、2秒運針をはじめます。

2秒運針しているときは定時受信、強制受信および手動での時刻修正はできません。

【過充電防止機能】

二次電池がフル充電されると、それ以上は充電されないように過充電防止機能が働きますので、安心して充電ができます。

【パワーセーブ機能】

光が当たらない場所に連続して7日以上、時計を保管した場合、午前00時00分00秒になった時点で針の運針が止まります。（パワーセーブ作動中も精度範囲内で時刻を刻んでいます。）

- 時計に光を当てると、パワーセーブが解除されます。
- パワーセーブ解除後は、**強制受信**を行ってからご使用ください。

●充電時間の目安

時計のモデル（文字板の色など）によっては充電時間が異なります。あくまでも目安としてご利用ください。

cal.番号	照度（ルクス）	環 境	充電時間		
			一日分の充電時間	止まってから一秒運針までの充電時間	フル充電時間
HP35	500	室内照明	4時間	40時間	—
	3,000	蛍光灯スタンド（5W/240V20cm）	40分	3～5.5時間	120～170時間
	10,000	曇天	12分	2時間	50時間
	100,000	朝日/朝日光	4分	45分	13時間

# 3.ご使用になる前に

この時計は、充電不足になると「充電警告機能」が働き、秒針が2秒毎に動きます（2秒運針）。この「充電警告機能」が働いた場合は、文字板を光に当てて充電してください。しばらく充電すると秒針が1秒毎に動くようになります。

※2秒運針状態でも、2秒運針前の時刻を記憶して動いていますが、充電不足状態になっていますので、十分に光を当ててください。2秒運針は、約2日間続きます。

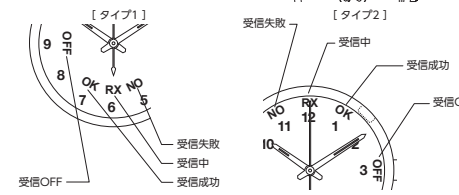
※2秒運針状態でも、2秒運針前の時刻を記憶して動いていますが、充電不足状態になっていますので1秒運針になるまで十分に充電してからご使用ください。

詳しくは、**ソーラー電源搭載ウォッチ特有の付加機能に付いて**をご確認ください。

【受信結果の確認】

この時計は、日本国内の電波送信所（福島局と九州局）から送信される標準電波（時刻情報）を自動選局し、時刻を自動修正する電波時計です。

Aボタンを1秒押すと、秒針が「OK/NO/OFF」のいずれかへ移動し受信結果が確認できます。



OK:電波受信成功です。成功しても時刻が合わない場合は「基準位置にの確認と合わせ方」を確認してください。

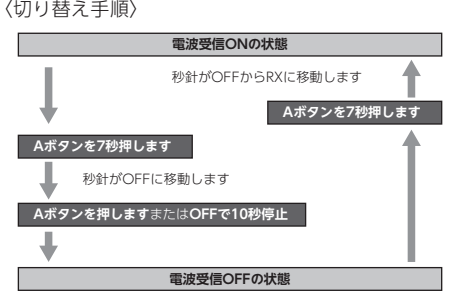
NO:電波受信失敗です。

OFF:電波受信機能がOFFです。

受信結果は10秒間表示し、自動的に現在時刻にもどります。また、表示中にAボタンを押し離すと現在時刻にもどります。

## 4.電波受信のON/OFF 切り替え

電波受信機能はON/OFF を切り替えることができます。海外などでまれに日本の標準電波を誤受信してしまう地域では、受信を停止させることにより日本の時刻に戻るのを防ぎます。



# 5.時刻の合わせ方

この時計の時刻の合わせ方は、「定時受信」「強制受信」「復活自動受信」「手動による時刻合わせ」があります。受信できる電波は、製品仕様 7. 受信電波を参照してください。

【定時受信】

毎日午前2時または、4時に自動的に受信をはじめます。（午前2時に受信できなかった場合は、午前4時に受信します。）

- 受信を開始すると、秒針がRXに移動します。
- 受信中は秒針が回転し、受信開始時からの時間差を自動的に修正します。通常運針になるまで時計を動かさしないでください。
- 受信が完了すると、秒針がRXから通常運針になります。

【受信結果の確認】で受信結果を確認してください。

【強制受信】

いつでも受信を行えます。受信環境が変わり定時受信できなかった場合などに行ってください。（受信手順）

- 表面電波時計について アンテナ向きのように時計を置いてください。
- Aボタンを約2秒以上押し、秒針がRXに停止したらボタンから指を離してください。

※RXで針が停止してもそのままボタンを押し続けると、電波受信OFFに切り替わります。

- 受信中に秒針が回転し、受信開始時からの時間差を自動的に修正します。通常運針になるまで時計を動かさしないでください。
- 受信が完了すると、秒針がRX から通常運針になります。

【受信結果の確認】で受信結果を確認してください。

【復活自動受信】

充電不足で時計が止まった後、十分に充電されると、1度だけ自動的に受信を行います。

- 受信中、各針は停止します。
- 受信中に時刻を確認したい場合は、A ボタンを2秒以上押し、受信をキャンセルしてください。各針は時刻表示に戻ります。
- 復活自動受信に失敗した場合は、充電不足で停止したときの時刻に戻り動き始めます。この場合は1秒運針しています。時刻がちがっているため、**強制受信**または、**手動による時刻合わせ**を行ってからご使用ください。

【手動による時刻合わせ】

<時刻の合わせ方>

- りゅうずを引き出します。秒針が0秒位置に停止します。
  - ※0秒位置で停止しない場合は、基準位置がずれている可能性があります。「基準位置にの確認と合わせ方」を参照してください。
- りゅうずを回して時刻を合わせます。1クリックで1分ぶんの各針が連動して動きます。（右回しで進み、左回しで戻ります）
  - りゅうずを素早く連続回転（2クリック以上）すると針が連続運針します。
  - 連続運針を止める場合はりゅうずを右または、左に1クリックします。
  - りゅうずが1回転する間に、カチッと指先に軽いクリック感を感じます。
- 時報などに合わせてりゅうずを押し込んで終了です。

<1時間単位での時刻合わせ>

- りゅうず通常位置でBボタンを押します。
  - 秒針が高速で往復運針後、通常運針になりましたら修正可能な合図です。
  - 10秒間何も操作しないと、自動的に修正状態が解除されます。
- りゅうずを引き出さないで回転させると、針が高速で1時間ぶん動き、通常運針に戻ります。（右回しで進み、左回しで戻ります）
  - 通常運針後、10秒以内でしたら何度も操作を繰り返すことができます。
- 時刻合わせ後にBボタンを1回押します。
  - 修正状態が解除されます。また、10 秒間何も操作しないと、自動的に修正状態が解除されます。

<時差の修正>

電波受信機能を停止（受信OFF）させてから修正することで、海外で日本の標準電波を受信しても、日本の時刻へ戻ることを防ぎます。電波を受信しない状態では、月差±15秒の精度で時計は動きます。

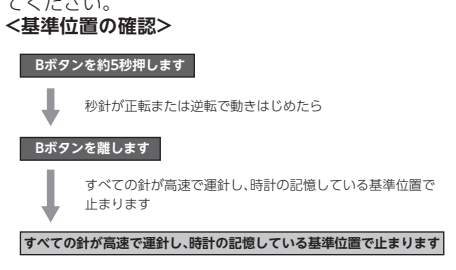
- 電波受信機能をOFF にします。
- <1時間単位での時刻合わせ>を行います。
  - 数時間の時差がある場合は、操作を繰り返し行って時刻を合わせてください。

日本時刻に戻す際は「受信ON」にした後、**強制受信**で時刻を合わせてください。

## 6.基準位置の確認と合わせ方

電波時計は基準位置をもとにして、受信した電波時刻を針で表します。外部からの強い衝撃や磁気などの環境におかれた場合、基準位置がずれる可能性があります。ずれた状態で使用されると、電波を受信しても時刻が正しく表示されません。電波受信しても時刻が正しくない場合は、基準位置を確認し、修正してください。

<基準位置の確認>



<基準位置の合わせ方>

- りゅうずを引き出します。
- 針を0時0分0秒の基準位置に合わせます。
- りゅうずを押し込むと、新しい基準位置を記憶します。
- Bボタンを押すか、そのまま2 分放置すると通常運針へ戻ります。

※**強制受信**を行ってからご使用ください。